

踏み跡 <My Mountains>

御坂	四尾連湖(しびれこ)から蛾ヶ岳(ひるがたけ)	No.287
----	------------------------	--------

ユニシス山中湖マラソンで「湖畔一周ウォーキング」もやることになり、何人かの友人に声をかけたら、井口が愛犬ケンチャンと一緒に参加してくれた。そして、その帰り道での山歩きにも付き合ってくれることになった。井口とは昭和44年夏の後立山以来の「超久し振り登山」。

今回のターゲットは御坂山塊の東端の山、蛾ヶ岳(ひるがたけ)。

この山に注目した理由は、山の名前が面白いことにある。「蛾(が)」を「ヒル」と読ませる所に何か由来・



因縁があるのではないかと……。山名の由来は諸説あるようだ。甲斐国誌には「甲府から見ると昼に太陽がこの山の上に来ることから昼ヶ岳」と記されているらしいし、「山ヒルがいる山」とか、「中国の峨眉山になぞらえた」とかとか。

いずれにせよ、甲斐国誌の「舞鶴城の北の鎮めは金峰山、西の鎮めは白根山、南の鎮めは蛾ヶ岳」という記述からも「甲斐の国の大事な山」であり続けてきたことは確かなようだ。

平成10年4月19日

山中湖寮で朝食の残りもので弁当

を作ってもらったので、食糧費の節約ができた。天気は快晴、9時に出発。

井口の車には愛犬ケンチャンが同乗。本栖湖から国道300号線に入り、中ノ倉トンネル・古関トンネルを抜けて常葉川の上流へ。そして下部トンネルを潜って北上し四尾連湖の湖畔へ。

途中から朝の白根三山雪景色を眺めながらの快適なドライブ。

車道の行き止まりである湖畔の駐車場に10時55分に到着。

私と井口とケンチャンの風変わりなパーティで11時09分に出発。ケンチャンの体には専用の水筒がくくりつけられている。時折飼い主と会話をしているようだったが、その内に私もメンバーの一員として認識してくれるようになった。

湖の東側、大島山の腹を斜めに登ると主稜線に出た。ここからは南南東に向かって唐松林のプロムナードを歩くようになる。カタクリ・イカリソウ・ヒトリシズカ・スミレなどなど、春の低山ならではの植物を楽しむことができる。小さな起伏をいくつかこなして、最後は蛾ヶ岳の西側を巻くように登って肩(海拔1220mぐらいか)に取り付き最後の登り。

12時10分、蛾ヶ岳山頂(1279m)。残念ながら南アルプスは霞んで良く見えず、富士山は雲の中にかすかに見えるだけ。しかし日当たり良好、穏やかな山頂は昼食と昼寝に最適。

昼寝の後で、稜線上を大平山方面へ少し偵察してみたら、カタクリの群落を発見。

帰路は、元のルートに戻って大島山を越えて西側の四尾連峠経由で湖畔に下りた。ついでに湖畔を散歩して駐車場に15時30分に帰着。汗に濡れたシャツを着替えて、16時に出発。途中で東名高速経由の井口車と別れて中央高速経由で帰宅。



以上

この山行は井口との最後の山になってしまった。

踏 み 跡 <My Mountains>

あの南アルプス大縦走（No.50 昭和 40 年夏）のパートナーだった井口は、長く狭心症との戦いをした末、平成 15 年 1 月に他界した。通夜の晩の僧侶の法話を今でも覚えている。

「人は皆一度は死ぬのです。生まれた命はいつか終わりになるのです。命が始まった時には終わりまでの道筋は決まっているのかもしれませんが、終わりの時期は本人は勿論のこと誰にもわかりません。

もしかすると、今日かもしれないし明日かもしれない。死ぬということだけをとりわけ嘆いたり悲しんだりするだけでなく、この人と共にいた心で送り出してあげましょう」というような話だった。